

特別寄稿



大阪市 法栄寺住職 小林顕英

いきなりですが、「イチャリバ チョウデ」って、何のことかわかりでしょうか。

先日、沖縄旅行より帰ったばかりの友人が、顔を合わせるなり私の手を握りしめ、発した言葉が「イチャリバ チョウデ」なのです。

何のことかわからずに、キョトンと彼の顔を見る私に、「イチャリバ チョウデ」とニコリ微笑みながら、重ねて言います。

とにかく手を振りほどこぎ、一体何のことかと、逃げ腰で尋ねる私に、ニンマリと

「イチャリバ チョウデ」だから、と声を荒げながら問う私に、

「イチャリバ... であえば チョウデ... きょうだい

と、教えてくれました。 「出会えば、みなきょうだい」良い言葉だなとは思いましたが、その場合は「こっちにも選ぶ権利はある！」と、笑って終わったのですが、考えさせられた言葉です。

「であえばみなきょうだい」イチャリバ チョウデ！

私の大好きな沖縄方言に、「ヌチドウ タカラ いのちこそ宝物」というのがありますが、同じ位好きになった言葉が「イチャリバ チョウデ」であえばみなきょうだい」です。

私たちは、毎日沢山の人々と「すれ違い」ます。「であう」のなら良いのですが、言葉を交わすこともなく、同じ場に居たことすらも記憶には残っておりません。そんな私の存在を認め、居場所を与えてくれるのが、きょうだい という言葉であったと気付かされたのです。

場を奪って行くのも、言葉ならば、場を与えて行くのも、言葉「葉」なのです。決して私を見捨てることなく私に居場所を与えて下さっている言葉こそ、「南無阿弥陀仏」の喚び声であります。

「恋しくば 南無阿弥陀仏と称ふべし 我も六字の 内にこそすめ」

（蓮如上人御詠歌） みんな、同じはたらきの内にある、きょうだいなのです。 「イチャリバ チョウデ」

小林先生は今年の永代経のご講師です。法座期間中に寄稿して下さいました。

祝 第18回 ふれあい法座 4月22日(日) 門信徒慶祝行事 副住職結婚門徒披露

当山副住職の結婚式翌日、四月二十二日(日)には、恒例の第十八回ふれあい法座を、結婚の報告を兼ねて開催しました。 当日は二百名を超える門信徒の方がお参りされ、午前中は、媒酌人の谷川弘顕師のご法話を頂戴した後、ご門徒の初参式、小学校入学、遠暦古希喜寿、米寿、卒寿の該当者に、住職より記念品が手渡され、参拝者全員でお祝いしました。



まず阿弥陀さまに、お花と灯とお香をお供えしました。

門徒披露 祝 宴



謡いや詩吟、ギタ・弾き語り、踊りなど途切れることなく続き、楽しいひとときを共有しました。

午後は新夫妻を囲んで結婚披露の「祝宴」が開かれ、お祝いの言葉や余興で大いに盛り上がり賑わいました。

私の報恩講



浜田 割烹「横田」さん宅 お母さんを中心に長男、次男夫婦揃ってご縁に遇われました。

昨年十一月より、ご門徒一軒一軒のご家庭で報恩講を迎えています。 どのご家庭も、精いっぱいのお迎えをされます。 そのお気持がお仏壇のお荘厳等を通して伝わってきます。



跡市 佐々木正廣さん宅 おばあさんは九十四歳、孫の風香ちゃんは今小学三年生。今年も家族四人で遇われました。

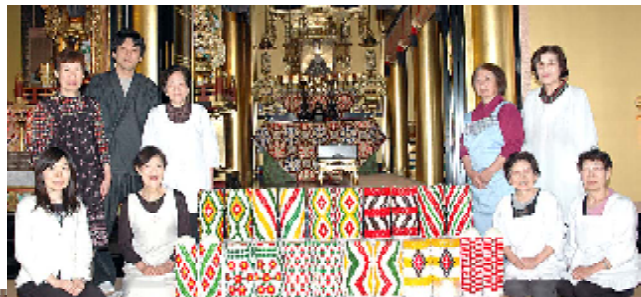


浜田 千代延均さん宅 ご夫婦、娘さん三人でご縁に遇われました。

浄光寺永代経法要勤まる 5月5日~9日 講師 大阪 小林顕英先生



11対のだんごのお供えを数日間かけて作成します。今年も和木地区のお同行の皆さんのご報謝により、素敵なお荘厳が完成しました。



永代経のだんごのお供え



お寺が永代にわたって存続し、み教えが繁盛し続けるようにとの願いの中で、今年も永代経法要が五月五日(九日)まで五日間、大阪より小林顕英先生をご講師にお迎えして勤まりました。「念仏をきく」と題してすばらしい子育てに預かりました。何より私自身が聞法に励み、その慶びを子々孫々に伝えていくことが大切です。